大学期の親準備性の発達（9）

○岩治まとか[1]・伏見友里[2]・武井澄江[2]
（[1]鶴川女子短期大学・[2]東京家政大学）

目的　本研究は大学で学ぶ4年間で、青年女子がどのように「保護される立場」から「保護する立場」に成長していくのか。どうやって「保護する立場」に必要な力を身につけていくのかを明らかにしようとするものである。これまでの報告では、親準備性として主にソーシャルスキル尺度（相川ら,2005）と養護性尺度（岩治,2004）を取り上げ検討してきた。また尺度の特徴としては就学前母子関係およびＩWM尺度との関連性からの検討を行った。親準備性には困難があろうとも挫けず（保護していく）、導いていくという観点が含まれる。それらはレジリエンス、時間的展望という概念のもとに研究されてきている。本報告ではこれまで用いてきた「養護性」がそれらの概念とどう関連しているのか検討する。また、それらの能力の習得と大学での実習経験との関連についても検討を行う。

方法　**1）対象者**：首都圏A女子大学4年生42名（年齢21～22歳）　**2）実施時期**：①2012年5月及び②2012年7月　**3）実施方法**：心理系授業の最初に質問紙を配布し、その場での回答を依頼した　**4）質問紙の構成**：①自由記述項目;進路決定の有無とその具体的職種、大学での施設実習体験の有無とその期間、現在やりがいを感じることと気にかかること、大学に入って自分にとって重要だったこと、今まで育ってきた中で自分が変化したと思う時期とその要因、なりたい女性像等　4段階評定尺度項目;愛着尺度27項目、養護性尺度63項目（岩治,2004）、成人用ソーシャルスキル自己評定尺度35項目（相川ら,2005）②Ｉライフイベントが生じる理想的年齢について、Ⅱ理想の生き方に対する順位づけ、Ⅲ生活やつきあいの場に対する気持ち、Ⅳ現在の生きがいについて、Ⅴレジリエンス尺度（伏見ら,2012）、Ⅵサークルテスト、Ⅶ時間的展望体験18項目（白井,1994）。Ⅴ,Ⅶについては4段階評定で実施した。

結果と考察　本報告では、5月に実施した調査票のうち「養護性尺度」と、7月に実施した調査票のうち「レジリエンス尺度」及び「時間的展望体験尺度」について分析を行った。分析対象は大学入学時、2年進級時、3年進級時、4年次5月及び4年次7月実施の、すべての調査に回答のあった21名である。

1）養護性とレジリエンスとの関連：養護性下位尺度とレジリエンス下位尺度について相関係数を算出検討した。その結果、「将来の子育てに対するネガティブな予測（逆転項目）」について「未来」との間に中程度の相関($r=.61, p<.01$）がみられ、「レジリエンス全体」とも中程度の相関が示された($r=.47, p<.05$)。また「養護性全体」と「レジリエンス全体」との間に中程度の相関がみられた($r=.45, p<.05$)。

2）養護性と時間的展望体験との関連：養護性下位尺度と時間的展望体験下位尺度について相関係数を算出し検討した。その結果、「親に対するポジティブな感情」と「希望($r=.69, p<.01$)」「現在の充実感($r=.58, p<.01$)」及び「時間的展望体験全体($r=.61, p<.01$)」との間に中程度の相関が示された。「親になることへの積極的志向」では「目標志向性」との間に中程度の相関がみられた($r=.56, p<.01$)。また、「将来の子育てに対するネガティブな予測（逆転項目）」との間には時間的展望体験全ての下位尺度「目標志向性($r=.48, p<.05$)」「希望($r=.46, p<.05$)」「現在の充実感($r=.58, p<.01$)」「過去受容($r=.61, p<.01$)」と「時間的展望体験全体($r=.70, p<.01$)」との間に中程度の相関がみられた。また、「養護性全体」との間には「目標志向性($r=.52, p<.05$)」「希望($r=.56, p<.01$)」「現在の充実感($r=.50, p<.05$)」との間と、「時間的展望体験全体($r=.60, p<.01$)」との間に中程度の相関が示されていた。時間的展望体験尺度は、将来に対する目標志向性や希望、現在の充実感、過去受容から成る尺度であり、これから社会を担い「保護する立場」としての成長や意識との関連が高いことが考えられる。

3）実習経験の有無と「レジリエンス尺度」「時間的展望体験尺度」「養護性尺度」得点について：外部での施設実習経験有群は17名、実習経験無群は4名であった。レジリエンス尺度得点については、「問題解決能力」と「未来」について実習有群の得点が若干高かった。時間的展望体験尺度得点については、「目標志向性」「希望」「現在の充実感」及び「時間的展望体験全体」で実習有群の得点が若干高く、「目標志向性」について有意な差が見られた（$t(18.23)=2.36, p<.03$）。養護性尺度については、「子ども赤ちゃんへの関心」「親になることへの積極的志向」「奉仕的な志向」「養護性」について実習有群の得点が若干高かった。実習を体験することは、将来に対する目標や仕事に対するより具体的なイメージを明確にさせる要因の一つとなることが考えられる。また同時に、外部施設に実習に出ること自体が、将来の目標のための通過すべき体験であることからも、目標志向性に関連することが考えられる。